文部省検定済教科書

17	地理 722
教出	

新版

中学社会

地理的分野

教育出版株式会社

監修者

横浜国立大学教授　野村正七
立正大学教授　北島正元

〔別記著作者〕

茨城大学助教授　朝野洋一
阪南大学教授　阿部　斉
元新潟大学教授　五十嵐正一
明治大学教授　石井素介
笠間市立笠間中学校長　臼井　清
東京都立上野高等学校教諭　大江一道
中央大学教授　奥田義雄
お茶の水女子大学教授　河野重男
東京大学助教授　笹山晴生
東京都文京区立第[illegible]中学校教諭　定　信夫
東京大[illegible]

編集[illegible]

成蹊大学教授　佐藤　竺
札幌市立柏中学校長　菅原　茂
東京都町田市立忠生中学校教諭　鈴木　武
東京都立大学助教授　寺阪昭信
東京大学助教授　鳥海　靖
中央大学助教授　中村達也
横須賀市立衣笠小学校長　長山総一郎
立教大学教授　松浦高嶺
東京都立大学助教授　矢沢康祐
川崎市立高津中学校教諭　油布忠司
経済教育研究協会　吉田一正

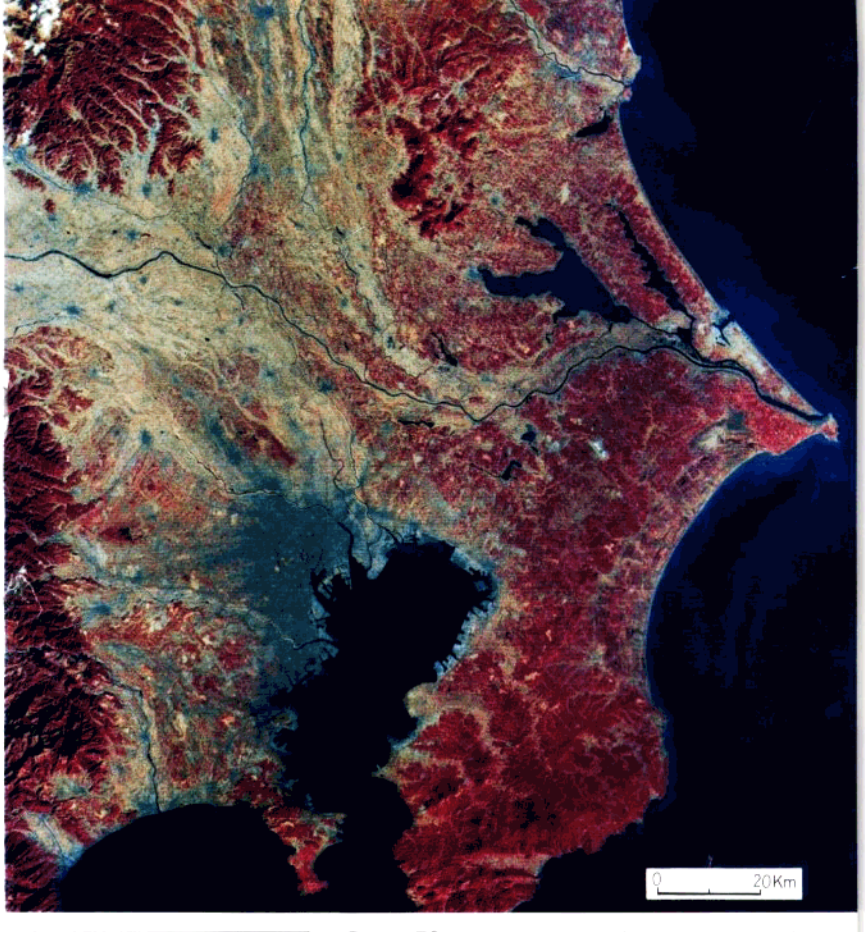
編集部

[illegible]区神田神保町2の10
[illegible]版株式会社
[illegible]長者　矢戸　馨
[illegible]都新宿区市谷加賀町1の12
日本印刷株式会社
代表者　北島織衛

発行所　東京都千代田区神田神保町2の10
教育出版株式会社
電話 東京（261）代表0191 〒101

この教科書にもとづくワークブック・解説書，ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。

本書に掲載した地図及び空中写真は，建設省国土地理院長の承認を得て，同院発行の2.5万分の1，5万分の1地形図，20万分の1地勢図，1.5万分の都市機能図，及び空中写真を複製したものである。（承認番号 昭和52，総複，第1,311号）



▲①人工衛星「アーツ」からながめた関東平野　約900kmの上空から撮影したものである。この写真は，植物の成育のようすをみせるために，人工的に特殊な色づけがしてあり，実際に目に見える色とはちがっている。赤色は森林をあらわし，赤色が濃いほど植物の成育状態がいい。オレンジ色は耕地や草地，青色は市街地や工業地域である。

東京の市街地には森林が少なく，市街地が内陸へひろがっているようすがわかる。また，東京湾沿いの埋立地がくしの歯のようにのび，九十九里浜の海岸とは対照的である。新東京国際空港(成田)や鹿島工業地域もはっきりと写しだされている(→p. 118)。

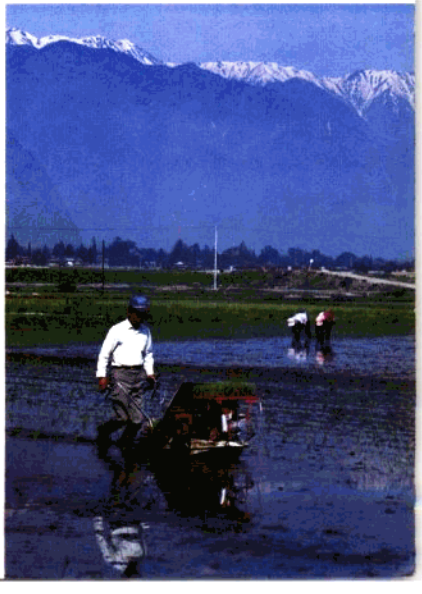
▲ ②新宿副都心の超高層ビル（東京都新宿区）（→p. 122）

▼ ③東京湾の埋立地にひろがる京葉工業地域（千葉県市原市）（→p. 125）

▲④北海道中央部の畑作農業（北海道美瑛町）（→p. 157）

▼⑤ビニルハウス内でのきゅうりの栽培（高知県南国市）（→p. 69）

▼⑥中央高地の松本盆地における田植え（長野県安曇村）（→p. 106）

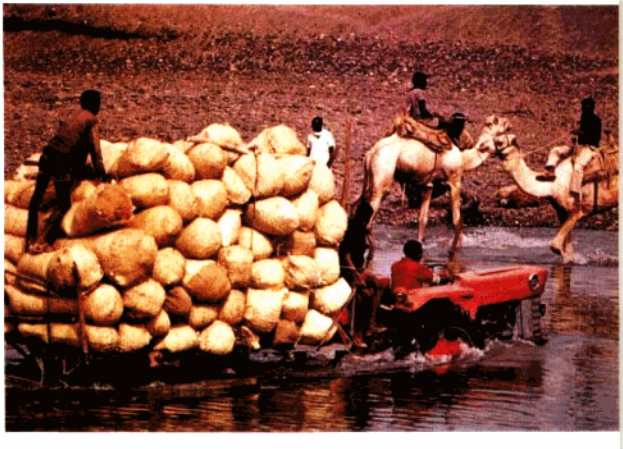


此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

▲⑦バリ島での稲の刈りいれ（インドネシア）（→p. 207）

◀⑧ターチャイ（大寨）人民公社での農業（中華人民共和国）（→p. 202）

▲⑨給水車で羊に水をあたえる遊牧民（シリア）（→p. 220）



►⑩らくだにかえ，トラクターで綿花を運ぶ人々（エチオピア）（→p. 232）

►⑪シャンパーニュ地方でのぶどうの収穫（フランス）（→p. 245）

▲⑫西部の広大な小麦地帯での小麦の収穫（アメリカ合衆国）（→p. 278）

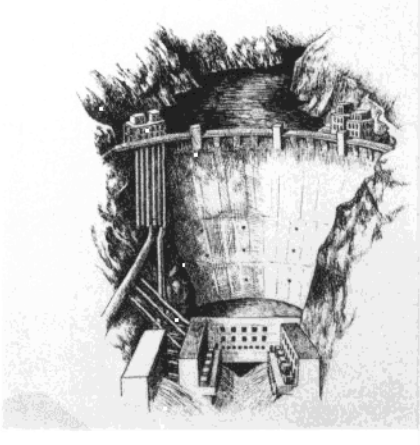
▼⑬さとうきびを刈り取る人々（キューバ）（→p. 299）

▼⑭羊のせりに集まる人々（オーストラリア）（→p. 300）

昭和52年4月10日 文部省検定済
中学校社会科用〔地理的分野〕

新版 中学社会

地理的分野



188144

もくじ

地理の学習をはじめるにあたって……5

身近な地域……7

(1) 歩いて調べてみよう……8
(2) 土地のようすを調べてみよう……10
(3) 地域の変化をさぐってみよう……15
(4) 人々の生活を調べよう……18

日本とその諸地域……25

1 人々の生活と国土……26
(1) 日本のなりたち……27
(2) 生活の舞台……28
(3) 人口増加と都市化……37
日本の地域区分……40

2 九州地方……42
(1) 九州地方の鉱工業……45
日本の産業の移りかわり……50
(2) 九州地方の農業と漁業……52
(3) 九州地方の商業と交通……55
〈沖縄と離島のなやみ〉……56

3 中国・四国地方……60
(1) 瀬戸内の工業と農業……63
日本の工業……64
(2) 南四国の農業……69
(3) 中国山地と山陰の農業……70
(4) 中国・四国地方の商業と交通……73
〈かわる瀬戸内海〉……75

4 近畿地方……78
(1) 近畿地方の工業……81
(2) 近畿地方の農業と漁業……85
(3) 近畿地方の商業と交通……87
日本の商業と流通……88
〈琵琶湖にかける人々の願い〉……93

5 中部地方……96
(1) 東海の工業と農業……99
(2) 中央高地の農林業と工業……105
日本の林業と水産業……108
(3) 北陸の農業と工業……111
(4) 中部地方の商業と交通……113
〈日本海地域の開発〉……115

6　関東地方……118
(1)　関東地方の工業……123
(2)　関東地方の農業……130
(3)　関東地方の商業と交通……133
日本の交通と通信……134
〈利根川の治水と利用〉……137
7　東北地方……140
(1)　東北地方の農業と漁業……143
日本の農牧業……148
(2)　東北地方の鉱工業……150
(3)　東北地方の商業と交通……152
〈北上山地に生きる人々〉……153
8　北海道地方……156
(1)　北海道の農林水産業……159
(2)　北海道の鉱工業……163
日本のエネルギー産業と鉱業　166
(3)　北海道の商業と交通……168
〈北海道の総合開発〉……170
9　国土の開発と保全……173

世界とその諸地域……177

1　世界の人々と自然……178
(1)　地球と地図……180
(2)　世界の地形……182
(3)　世界の気候……185
(4)　世界の国々……189
2　アジア……192
〈アジアのモンスーン地域〉……194
(1)　朝鮮……195
(2)　中国……198
(3)　東南アジア……206
(4)　インド……212
(5)　西アジア……218
〈西アジアと北アフリカの砂漠地域〉219
3　アフリカ……224
〈赤道アフリカの熱帯雨林とサバナ〉226
(1)　北アフリカ……227
(2)　サハラ以南の国々……229
4　西ヨーロッパ……236
〈ヨーロッパの自然環境〉……238
(1)　イギリス……241
(2)　フランス……244
(3)　西ドイツ……246
(4)　北ヨーロッパの国々……250
(5)　南ヨーロッパの国々……252
5　ソビエト連邦と東ヨーロッパ……256
〈シベリアの森林地帯〉……258

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

(1) ソビエト連邦…… 260
(2) 東ヨーロッパ…… 266
6 アングロアメリカ…… 270
〈北アメリカ大陸の平原地帯〉… 272
(1) アメリカ合衆国…… 273
(2) カナダ…… 282
7 ラテンアメリカ…… 286
〈アンデス山地〉…… 288
(1) 中央アメリカ…… 289
(2) ブラジルとアルゼンチン…… 291
(3) アンデス諸国…… 295
8 オセアニアと両極…… 298
〈オーストラリアの乾燥地域と水の利用〉 299
(1) オーストラリアとニュージーランド… 299
(2) 太平洋の島々…… 303
(3) 両 極…… 304

世界のなかの日本…… 307

(1) 交通・通信による結びつき… 308
(2) 貿易による結びつき…… 310
(3) 日本の貿易…… 314
(4) 産業と資源による結びつき… 317
(5) 政治による結びつき…… 319

コ ラ ム

八幡(やはた)の製鉄所で働く人々…… 47
中国山地の過疎(かそ)の村…… 72
住民をなやます航空機騒音(そうおん)…… 92
自動車工場の町…… 101
通勤になやむサラリーマン…… 122
庄内平野の米づくり…… 145
きびしい北洋漁業…… 164
ターチャイ(大寨)の農業…… 202
石油にたよる国クウェート…… 221
黒人部族の社会…… 231
西ドイツで働く出かせぎ労働者… 249
コルホーズの生活…… 262
人種差別と都市の黒人たち…… 280
ファゼンダで働く農園労働者…… 293
無線による授業…… 302

さ く い ん…… 322

地理の学習をはじめるにあたって

わたしたちは，なんのために地理を学ぶのであろうか。だれでもいちどは，電車や飛行機に乗って，見知らぬ遠くの場所へいってみたいと思ったことがあるだろう。日本はもとより，世界にはさまざまなところがあり，そこでは，さまざまな人々が生活している。地域によって，自然のすがたにちがいがあるばかりでなく，食べ物や衣服など，人々のくらしにもいろいろと特色がみられる。これら各地域に住む人々は，それぞれの土地で，自然にはたらきかけて産業を発展させ，また，他の地域の人々とたがいに結びつきを深めながら，より豊かな生活をめざしているのである。

わたしたちは，これらのことを小学校でも学んできたが，中学校では，これをさらに，深く広く学習しようとしている。地理を学ぶことによって，わたしたちは，日本や世界のそれぞれの地域について，その特色や問題点を正しく理解することができるとともに，さらに，それを通して，わたしたち自身の住んでいる地域や，わたしたちの国のありかたについても，より深く考えることができるようになるであろう。このことは，また，わたしたち自身が，これからの変動のはげしい社会のなかで，どのように生きていくべきかについて考えるばあいにも役立つであろう。

そのために，まず，「身近な地域」の学習からはじめよう。ふだんは，なにげなくすごしている自分たちの地域を，あらためて地理の目でみなおし，細かく調べてみると，思いがけない事実を発見したり，他の地域との深いつながりを理解できるようになる。このこと

は，また，より広い諸地域を学ぶための，正しいみかたや考えかたを身につけるうえで，たいせつな基礎になるのである。

「日本とその諸地域」では，現代日本の社会や経済の変動が，各地域に住む人々の生活を，どのようにかえているか，また，各地域における資源の開発や産業が，日本全体のなかでどのような役わりをはたしているかについて，各地域ごとの学習を通じて，理解を深めることにしよう。ことに近年は，過密と過疎，公害と生活環境など，さまざまな地域問題が日本の各地で発生し，国や地方自治体，あるいは，地域住民などがこれに取りくんでいる。これらについても，学習をすすめてみよう。

「世界とその諸地域」では，目を広く世界にひろげ，地球上にはどんな国々があり，そこでは，人々がどんな生活をいとなみ，どんな産業を発展させているか，それらの国々は，日本とくらべてどんな特色をもっているのか，などについて学習していこう。現代の世界では，交通や経済の発展につれて，国際的な結びつきがますます強まるいっぽう，資源問題や民族問題などをめぐって，政治・経済上の対立も少なくない。このような現代世界の新しい動きのなかで，日本はどんな地位をしめているのか，また，これからの国際社会のなかで，日本はどんな役わりをはたしていかなければならないか，これらについては，「世界のなかの日本」で考えることにしよう。

日本や世界の諸地域に住む人々は，長い歴史のなかで，それぞれの国土の自然を活用しながら，こんにちの生活と文化をきずきあげてきたのである。わたしたちは，祖先から受けついできたこの現代社会への理解をいっそう深めることによって，平和で豊かな世界をつくりだすしごとに参加する力を，身につけることに努めよう。

古墳近くまでせまる住宅（大阪府堺市百舌鳥古墳群）

この写真は，航空機から垂直に撮影したもので，写真上の仁徳天皇陵をはじめ，大小の古墳がみえる。古墳の周囲には，住宅や道路がせまり，写真下には広い道路が建設されている。そのため，古墳をはじめ文化財の保全が強くさけばれている。

身近な地域

かわる横須賀のまち

神奈川県の三浦半島に位置する横須賀市は，10年ほど前までは海岸に面する地域で農業や漁業が行われていたが，いまは，それらの地域が埋め立てや造成によって住宅地や工場にかわってきた。それは，この地域が東京や横浜・川崎などの大都市に近く，しかも，はじめ，品川から久里浜まで通じていた私鉄が，最近，三浦海岸をへて三崎口までのびて，たいへん交通の便がよくなったからである。

しかし，山をくずし，海を埋め立てて団地や住宅，工場をつくることによって，横須賀市の人々の生活は豊かになった反面，いろいろこまった問題がおきている。大雨によるがけくずれや河川のはんらん，あるいは自動車が多くなったため排出ガスや交通事故が多発するなど，山や谷の多い横須賀ではとくに大きな問題であり，住みよいまちづくりのために解決のせまられている課題である。

●上の文章にあるようないろいろな問題は，最近，各地におこってきている。これらの問題が，なぜおきてきたのかを明らかにすることはたいせつであるが，それには，まず，身近な地域を通じて考えてみよう。

(1) 歩いて調べてみよう ——野外観察と調査——

最近，わたしたちが住む町や村には，さまざまな変化がおきている。それは，人々が，自分たちの住んでいる地域の自然を利用して生活をいとなむとともに，長い間に，そこを住みよい社会につくりかえようと努力してきたからである。わたしたちは，地域の自然，人々の生活，産業のありさま，他地域との結びつきなどを知ることによって，地域の現状や問題点をつかむ必要がある。

地形や，土地の利用のようすは，地図や空中写真を読むことによって，おおよそのことを知ることができる。しかし，実際に，野外観察や調査をして，自分の目や耳で事実をたしかめ，さらに，統計や書物などで調べると，人々の生活や産業などのようすを正しくつかむことができる。

計画と準備のしかた 身近な地域は，わたしたちにとって，実際に見たり，聞いたり，調べたりするのにつごうがよい。したがって，身近な地域の自然や，人々の生活と生産のようすなどを正しくつかみ，さまざまな変化や問題がどうしておきてきたかを明らかにするためには，まず，実際のようすを歩いて観察することがたいせつである。観察の前に，つぎのことに注意しよう。

- 観察する地点となにを観察するか，計画をたてておこう。
- 自分たちが歩く道すじを書きいれた**ルートマップ**をつくろう。
- 調査に必要な地図・ノート・磁石・巻尺・スケッチブック・グラフ用紙などを用意しておこう。
- 見学する家や工場・役所などには，事前に連絡をしておこう。

観察のしかた まず，学校の屋上や小高い丘などからまわりのようすを観察し，つぎに学校の付近を歩いて調べよう。歩くときには，つぎのことに注意しよう。

- 野外では，たえず現地が地図にどのように表現されているかをたしかめ，地図にないものがあったらすぐに記入しよう。
- 土地の高低による土地利用のちがい，川や用水路の利用など，自然と産業との関係について観察しよう。
- 新しく建った住宅や工場については，交通との関係を考えよう。
- 土地のようすをよく知っている人から話を聞いたり，役所や農業協同組合・工場などの人から説明を聞くときには，聞いたことを順序よくまとめ，正しく判断することがたいせつである。
- よい統計や資料などがあるときには，すぐにその場でノートにうつしたり，見取図をかいておこう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.